

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 第9章 パート2

このメッセージはアップルゲート クリスマン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスマン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するの必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスマン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

ヨエル書2章を開いて下さい。面白い発見がありますよ。

シオンで角笛を吹き鳴らし、わたしの聖なる山でときの声をあげよ。この地に住むすべての者は、わななけ。主の日は来るからだ。その日は近い。(ヨエル書2:1)

「主の日」はわかりますね。

歴史の中に、目に見える形で主が直接介入される日。

患難から始まる主の日、携挙の直後に始まる日、主が来られた後直ちに始まる日。

主の日とは、それら全てを指すのです。

大患難は7年間続くけど、私たちは天国です。

大患難と千年王国、7年の苦しみと困難に続いて、千年の平和と繁栄。

やみと、暗黒の日。雲と、暗やみの日。山々に広がる暁の光のように数多く強い民。

このようなことは昔から起こったことがなく、これから後の世々の時代にも再び起こらない。

(ヨエル書2:2)

彼らの前では、火が焼き尽くし、(ヨエル書2:3)

ここでよく考えて下さい。

これは黙示録9章の2-10節に書かれていることと全く同じです。

黙示録9章では、最初のラッパが鳴った時、底なしの穴から恐ろしい軍隊が解き放たれました。

同じようにヨエル書2章でラッパが吹かれた時、

その有様は馬のようで、軍馬のように、駆け巡る。

さながら戦車のきしるよう、彼らは山々の頂をとびはねる。それは刈り株を焼き尽くす火の炎の音のよう、戦いの備えをした強い民のようである。

その前で国々の民はもだえ苦しみ、みな顔は青ざめる。(ヨエル書 2:4-6)

黙示録 9 章では人々が痛みますが、どれくらいの時間痛むのでしょうか。

ところで聖書の学びをしている人は、いなごの寿命がどれくらいか知っていますか。

5 ヶ月。その通りです。

それは勇士のように走り、戦士のように城壁をよじのぼる。それぞれ自分の道を進み、進路を乱さない。

互いに押し合わず、めいめい自分の大路を進んで行く。投げ槍がふりかかっても、止まらない。

それは町を襲い、城壁の上を走り、家々によじのぼり、盗人のように窓から入り込む。

その前で地は震い、天は揺れる。太陽も月も暗くなり、星もその光を失う。(ヨエル書 2:7-10)

この箇所、何か気づきませんか。この詩的な描写、わかりますよね。

黙示録 9 章はヨエル書 2 章を繰り返していて、同じ出来事を伝えているのです。

主は、ご自身の軍勢の先頭に立って声をあげられる。その隊の数は非常に多く、主の命令を行う者は力強い。主の日は偉大で、非常に恐ろしい。だれがこの日に耐えられよう。

「しかし、今、一主の御告げ一心を尽くし、断食と、涙と、嘆きとをもって、わたしに立ち返れ。」

あなたがたの着物ではなく、あなたがたの心を引き裂け。あなたがたの神、主に立ち返れ。主は情け深く、あわれみ深く、怒るのにおそく、恵み豊かで、わざわいを思い直してくださるからだ。

主が思い直して、あわれみ、そのあとに祝福を残し、また、あなたがたの神、主への穀物のささげ物と注ぎのぶどう酒とを残してくださらないとだれが知ろう。

シオンで角笛を吹き鳴らせ。断食の布告をし、きよめの集会のふれを出せ。

民を集め、集会を招集せよ。老人たちを集め、

主に仕える祭司たちは、神殿の玄関の間と祭壇との間で、泣いて言え。(ヨエル書 2:11-17)

ヨエル書 2 章で、空を暗くするこの軍隊は誰ですか。

歴史的には、ヨエルの時代に本当の災害が発生し、国全体がバッタやいなごで滅ぼされました。

預言的には、主の日について語っており、軍事的には、この書が書かれた直後にアッシリアが北から攻めて来て、北イスラエルの 10 部族を捕囚として連れて行きました。

このように、ヨエル書の中にはいくつもの要素が盛り込まれているのです。

ヨエルの時代に起こった本当の虫の災いは、黙示録 9 章で 5 つ目のラッパが鳴った時の預言でもありません。

同じ状況です。

ラッパが吹かれ、恐ろしい軍隊が襲って来る。

ヨエル書が書かれてすぐにアッシリア軍が襲来して大打撃を与え、人々は残酷に捕囚されてひどく嘆き悲しみました。

御言葉のこういうところに、私は驚嘆するのです。

多岐にわたるレベルと意味していることの層。

これらはとても現実的、実践的なことなので、今日の学びの中で是非つかみ取って下さい。

敵が近づいているというラッパが吹かれると、主の使いとして、祭司は祭壇で嘆き悲しみ、執り成しをし

なければならないとヨエルは言います。

祭壇で嘆き執り成す。

ヨエルが言ったように、人々がすべきことを行い、悔い改めるなら、大きな約束が待っているのです。皆さん、よく知っていますよね。

ヨエル書 2:25、主が人々に言いました。

あなたがいなごに食い荒らされた時、被害を被った時、攻撃を受けていると感じる時、それが肉体的な問題であれ悪魔的な攻撃であれ、やがてラッパが吹き鳴らされ、嘆き祈るべき時が来た時にあなたがそうするなら、主は、

「いなご、ばった、食い荒らすいなご、かみつくいなご、わたしがあなたがたの間に送った大軍勢が、食い尽くした年々を、わたしはあなたがたに償おう。あなたがたは飽きるほど食べて満足し、あなたがたに不思議なことをしてくださったあなたがたの神、主の名をほめたたえよう。わたしの民は永遠に恥を見ることはない。」(ヨエル書 2:25-26)

これは多くの人たちが聞いたことのある聖句ですね。

「年々を、わたしはあなたがたに償おう。」

主は、ただ時間を取り戻すだけでなく、結婚生活、親子関係、感情的な苦痛、経済的困難、ミニストリーの損失、それがいなごだろうが悪霊の攻撃だろうが何であれ、失くしたものも取り戻すのです。

このヨエル書 2 章に登場する恐ろしい軍隊は、黙示録 9 章を詳述しています。

もしあなたが御言葉に従うなら、ラッパの音を聞き、悔い改めて、心から主を捜し求めるなら、主は「あなたを赦すだけでなく、あなたが災いで失ったものも取り戻す。」と言われるのです。

この解き放たれた悪霊たちが地を満たし、人々を刺し、地から消し去ろうとする時、天国の金の祭壇の四隅の角から大声で叫ぶ声があります。

これはヨエル書 2 章で、主が「祭司と聖職者が祭壇の前に出てわたしに泣き叫び、へりくだるなら、そして人々はその模範に従って悔い改め、祭壇の祭司が執り成すなら、いなごが食い荒らした年々を償おう。」とされていることです。

同じ事が天国でも起こっているのです。

では、この金の祭壇、執り成しの祭壇で泣いている祭司、聖職者とは誰でしょう。

それは、他でもないイエス・キリスト。当然です。

憐れみ。

神は救いを拒絶した人々が目を覚まし、真実を見ることを切望しておられるので、そのためにはあらゆる手段を用いるのです。

これらの人々やあなたの人生の中で起こる苦難、家族関係、経済的困難、健康問題、困難な結婚生活などどんなことでも、あなたが疲れ切つてようやく主の前で崩れ落ちるまで、私が主の前にへりくだって「主よ、助けて下さい。」と言うまで、主はあらゆる手段を使います。

それは、主が、私たちの安定した現状よりも、私たちの魂がどこに向かっているのかをもっと心配されるから。

神は何億年、つまり永遠という大きな図を見ておられるからです。

彼らは刺されますが死ねません。

それは神の意地悪ではなく、彼らが敏感になるためです。

あなたの目を開くために、無気力のあなたを目覚めさせるために、私を無関心から覚醒させるために、主はどんな“いなご”が送り込まれることを許さなければならないのでしょうか。

それは結婚生活の破綻やビジネスの失敗、癌宣告や子供に関する問題かもしれません。

「ジョン、もしあなたがそれで目覚めるなら、わたしはそれを起こそう。

わたしはあなたを本当に愛しているから豊かな永遠を与えたい。

これから先の何百億年を満たしてあげたいのだ。

もしあなたが覚醒し、悔い改めてシオンで吹き鳴らされる角笛の音を聞くなら、あなたが失くしたものを全て償おう。」

なぜなら、祭壇にはイエスがいるから。

黙示録 9 章を読むと、悔い改めず、罪を犯し続ける人々の存在に気づくでしょう。

彼らは悪霊のさそりに刺され、あまりにも辛くて死を求めます。

神は苦痛を与えさせましたが、殺すことは許可されませんでした。

彼ら自身の命であれ、結婚生活であれ、娘や息子との関係など何であれ、殺すことはできません。

離婚することはできるでしょう。

しかしそれを殺してしまうことはできません。

絶対に死なない。

痛みは残り、問題も存在します。

でも死なない。殺すことはできないのです。

黙示録 9 章の人々も死のうとします。

「こんなに苦しいのは耐えられない。死んでしまおう。」と言って、死のうとしますが死ねません。

それが、問題なのです。

罪の中にいる私たち全ての者が別の罪を犯し、どうにかごまかしたり、始末をつけたりしながら何度も何度も罪を犯して、そして、死にたいと願う。

でも死ねません。

さてこれから、今までのことを組み合わせて黙示録に戻ります。

黙示録 9 章。ここに描かれているのは、

底知れぬ穴から出て来るいなご (黙示録 9:3)

地はいなごで覆われ、そのため太陽も暗くなる (黙示録 9:2)

このいなごはさそりのように人を刺す (黙示録 9:5)

人々は死を求めるが許されない (黙示録 9:5 - 6)

いなごの形は、出陣の用意の整った馬に似ていた。

頭に金の冠のようなものを着け、顔は人間の顔のようであった。

女の髪のような毛があり、歯は、獅子の歯のようであった。(黙示録 9:7-8)

醜くてグロテスクで恐ろしい。

彼らは、底知れぬ所の御使いを王にいただいている。

彼の名はヘブル語でアバドンといい、ギリシヤ語でアポリュオン（破壊者）という。（黙示録 9:11）

何語でもどんな文化でも、サタンがすることは同じです。

彼は破壊者で、人種差別せずに全ての人を破壊します。

ここまで恐ろしい悪霊について学んできましたが、次に何が起こるか見てみましょう。

第六の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、私は神の御前にある金の祭壇の四隅から出る声を聞いた。（黙示録 9:13）

主がこれら全てを指揮していて、主こそが祭壇にいる方。

ロシュ・ハシャナー（新年）になると、パッパラパッパッパーとラッパが吹き鳴らされます。ラッパですよ、皆さん。ラッパ。

それから続いて嘆き、悔い改めの 10 日間、そして贖罪の日（ヨム・キプール）。

どうして新年のラッパからヨム・キプールまで 10 日間か。

神の律法、十戒のうちいくつ破ったと思いますか。

ヨム・キプールの時、神殿の中の金の祭壇でささげ物が捧げられていました。

ヨム・キプールには、血が最も聖なる所に持ち込まれ、まず祭壇の四隅の角に注がれるのです。

ここで書かれている金の祭壇です。

祭壇から聞こえる声は主イエスの声、そしてそこに注がれたのは彼が流した血…。

その血が叫び、全ての人に赦しを与えているのです。

第 6 のラッパが吹き鳴らされ、神の御前にある祭壇から声がした後、

その声がラッパを持っている第六の御使いに言った。「大川ユーフラテスのほとりにつながれている四人の御使いを解き放せ。」（黙示録 9:14）

この 4 人の御使いは悪霊です。

ユーフラテス川とはどういう意味でしょう。

それは、神がアブラハムに与えた地の境界線で、約束の地の西岸地区です。

今問題になっている西岸地区は、ヨルダン川の西側ですが。

ここは境界線というだけでなく、イラク、イラン、シリアも含まれていて、やがてイスラエルに与えられます。

元々ユーフラテス川はエデンの園の境界でした。

反逆者という名のニムロデが、神に背いてカルト宗教のバビロニアを造り、最後にバベルの塔を建てた場所で、多くの意味を持つ地域です。

そこに繋がれていた 4 人の墮天使（悪霊たち）が放たれます。

すると、定められた時、日、月、年のために用意されていた四人の御使いが、人類の三分の一を殺すために解き放された。（黙示録 9:15）

これらの悪霊たちが解き放たれると、人類の 1/3 が殺されます。

これ以前に既に殺されている人数を足すと、全人類の半分が死んだことになります。

想像できますか。どのように起こるのでしょうか。

騎兵の軍勢の数は二億であった。私はその数を聞いた。私が幻の中で見た馬とそれに乗る人たちの様子はこうであった。騎兵は、火のような赤、くすぶった青、燃える硫黄の色の胸当てを着けており、馬の頭は、獅子の頭のように、口からは火と煙と硫黄とが出ていた。これらの三つの災害、すなわち、彼らの口から出ている火と煙と硫黄とのために、人類の三分の一は殺された。馬の力はその口とその尾とにあって、その尾は蛇のようであり、それに頭があって、その頭で害を加えるのである。(黙示録 9:16-19)

この軍隊は一体何者か。

黙示録が書かれた時代には、地球上の全人類は2億人もいませんでした。

では、2億人もの兵を持つ軍隊とはどういうものなのでしょう!?

それは、日の出る方からやって来ます。

これについては、16章にはっきり書いてあるのでその時に見ます。

1961年4月、ラジオの北京放送が、自分たちの軍隊は5ヵ月以内に出動可能だと公に自慢しました。

面白いことに、2億からなる中国赤軍の軍隊を動員するのに5ヵ月かかるのです。

中国の軍隊が日本や他のアジア諸国と共に、反キリストと戦いを交えるため、イスラエルに向けて出陣します。

これは16章の別の話です。

つづく

主はマナセとその民に語られたが、彼らは聞こうともしなかった。

そこで、主はアッシリヤの王の配下にある将軍たちを彼らのところに連れて来られた。

彼らはマナセを鉤で捕らえ、青銅の足かせにつないで、バビロンへ引いて行った。

しかし、悩みを身に受けたとき、彼はその神、主に嘆願し、その父祖の神の前に大いにへりくだって、神に祈ったので、神は彼の願いを聞き入れ、その切なる求めを聞いて、彼をエルサレムの彼の王国に戻された。こうして、マナセは、主こそ神であることを知った。(Ⅱ歴代誌 33:10-13)